

MURAMATSU通信 SPECIAL

保存版

金製ムラマツ・フルート

14K.GOLD/18K.GOLD

ゴールドを代表する2つの魅力

01 笛吹きとの対話

アンドレ・ジョネ

●青木 宏

03 **特集** 金製ムラマツ・フルート
14K.GOLD/18K.GOLD

11 音楽史の扉

J-M.ルクレール

●森岡広志

13 ムラマツ・フルート ラインナップ

輝きに、願いをこめて。

古くて新しい伝統工芸、截金。

純金箔やプラチナ箔を線状や丸・三角・四角などに截り

膠を使い筆で貼りながら、種々な文様を描きます。

六世紀、仏教と共に仏像装飾の技法として大陸より伝わり、

十一世紀末より日本独自の截金として発達し、

十三世紀に至るまで、優麗な仏教美術の華を咲かせました。

その後截金は衰退しますが、少数の截金師により伝承されました。

現代では、茶道具や室内装飾、調度品などにも応用されて復活し、

繊細で洗練された輝きを放っています。

それは単なる技の伝承だけではなく、古の先達たちの截金への

真摯な精神をも遺伝子のように受け継いできたから。

ムラマツ・フルートのすべてにも、

日本で初めてフルートを完成させた情熱と愛情と技という

遺伝子が、すみずみまで受け継がれています。

——フルートが素敵なものになるために。



笛吹きとの対話 — 3

アンドレ・ジョネ フレンチ・スクール 最後の名人

村松フルート製作所◎青木 宏

「下の音を四つ吹いてください」
アンドレ・ジョネさんは生粋のフランス人で、尊敬するマルセル・モイーズに早くから学び、パリ音楽院ではフィリップ・ゴッペールやモイーズのクラスで研鑽を積んで、フレンチ・スクールをしっかりと身につけた人です。

そのジョネさんが、スイスのドイツ語圏のチューリヒに定住するようになったのは、1934年、指揮者のヘルマン・シエルヘンからヴァンタートウアー市立管弦楽団に誘われたことがきっかけでした。ジョネさんは、50曲くらいの曲を準備してカバンに入れ、シエルヘンに会いに行ったのです。ところが、シエルヘンは「ドの音を四つの高さで吹いてください」と言うだけ。ジョネさんが曲を用意してきたことを言うと、「音楽は私が十分わかっています。あなたは音ささきちゃんと出してもらえば」。それでジョネさんは、すっかりアタマにきちゃった(笑)。

アンドレ・ジョネ (André Jaunet)
(1911年5月17日、アンジェ [フランス] ~ 1988年12月13日、チューリヒ [スイス])

フィリップ・ゴッペールとマルセル・モイーズにフルートを学び、フレンチ・スクールの最後の継承者と称される。1939年、ジュネーヴ・コンクールでマルタンの「バラード」を初演して1位を獲得。1938年から1976年までスイスのチューリヒ・トーンハレ管弦楽団の首席フルート奏者をつとめる。R.エイトケン、D.フルーリー、J.-C.ジェラルド、P.-L.グラーフ、P.マイゼン、A.ニコレ、G.ルンベル、吉田雅夫ほか、数多くのフルート奏者を育てる。

でも、ジョネさんは2年間このオーケストラの首席をつとめました。その後、ベルン交響楽団の首席を経て、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団の首席と音楽院の教授となり、オーレル・ニコレやペーター・ルーカス・グラーフなど大勢の素晴らしいフルーティストを育てたのです。

優れた分析力と表現力

ジョネさんは、1970年に日本フルート協会の招きで来日し、東京音楽大学でバロック音楽について講演をしたことがあります。パツハの口短調ソナタのアナリゼをしたとき、ジョネさんに教えを受けた吉田雅夫先生が、このソナタがどのような構成になっているかを一枚の紙に図式化してまとめ、参加者に配りました。ジョネさんの要望だったのです。

このように、曲を深く分析して咀嚼し、自分のものにしてから演奏するのがジョネさんの特色です。作品に対する非常に優れた構築力を持ち、思いつきで物事を進めることは一切しません。

ジョネさんによると、転調する際に、一番大きな意味を持つのは半音での移行だといいます。例えばドビュッシーの「シランクス」で Rubato と記されている箇所では、半音で転調しています。そこではルバートをすると同時に、音色も微妙に柔らかく変化させ、全体の流れを緊張から弛緩へと導くのです。



ジョネとマルセル・モイーズ(右)。中央は指揮者のシャルル・デュワ。1965年、ボスヴィル。

いろいろですが、一番わかりやすく射ているのがジョネさんのものだと思います。ソノリテ——音の響き。それを磨くためにどうしたらよいか。そのための身体づくり方から始めて、音程のとり方など、音のつくり方を詳細に示したものです。これを演奏者が理解すれば、音楽表現のいろいろな可能性を見つけることができます。

一例を挙げると、モイーズは「シ」から「シb」へ、「シb」から「ラ」への移行によって、半音の練習を展開していきます。ここをジョネさんは「シ」から「ラ#」に移行し、そして「シb」から「ラ」に移行せよすが、実際の音楽では「シb」より「ラ#」のほうがピッチが高い。このように半音を見直して考えると、この練習は音を音楽的に発展させることができるのです。

「退屈な演奏だけはしないよー!」

吉田雅夫先生もジョネさんにたいへん心酔されていました。吉田先生がドビュ

ッシーの「シランクス」のレッスンを受けたとき、ジョネさんは、「お前は日本人なのだから、日本人らしく演奏してみろ」と言われました。で、先生は童笛をイメージして吹かれたそうです。するとジョネさんは、「それだー!」——ファンタジーなのです。もちろんイメージの違う場合は修正が必要ですが、何よりも音楽にはファンタジーが大切なのです。頭で考えるだけではない。これもモイーズから受け継がれている音楽の粋です。

ジョネさんはモイーズから言われた「自分の思うとおりに演奏しなさい。しかし退屈な演奏だけは絶対にしないこと!」という言葉を大切にし、それを守った演奏家だと思います。

1984年にジョネさんが来日されたときは、吉田先生をはじめ、お弟子さんたちが歓迎パーティーをムラマツの新店のホールで開きました。宴たけなわとなり、みなで笛の合奏を始めたとき、やおらジョネさんがカバンから譜面を取り出して配ったのです。それは「ハッピー・パースデイ・トゥ・ユー」を、ジョネさんがフルート合奏用にアレンジした変奏曲でした。その日、私どもの同僚のひとり誕生日なのを、ご存じだったのですね。

レッスンも厳しく、非常に辛らつな批評もしますが、こうしたとてもやさしい心配りを持った人で、みんなで音楽を楽しみ、仲間をととても大事にされていました。

ジョネとオーレル・ニコレ(左)。中央は娘のイヴォンヌ。



こうしてジョネさんの音楽が熟していく過程には、スイスに生まれ、ベルリン・フィルで活躍したオーレル・ニコレさんの存在も大きいと思います。ニコレさんはジョネさんに師事しましたが、先生のほうも弟子から学ぶことがたいへん多かったのでは、と思うのです。こうした師弟関係はとても素晴らしいですね。

ベルリン・フィルの首席のハンス・ペーター・シユミッツが1950年にリタイアするときに、指揮者のフルトヴェングラーが

『ソノリテ』の練習法

さらにジョネさんには、モイーズのエチュード『ソノリテについて』の練習法をまとめたものも残っています。『ソノリテ』は実にシンプルな訓練ですがたいへん難しく、その練習法も演奏者によって

今回はゴールド・フルートを代表する
14Kと18Kのモデルについて、
埼玉県所沢市の村松フルート製作所に
詳しい話を聞いた。

素材としての金の特性

ムラマツ・フルートは、洋銀、銀、金(9K、
14K、18K、24K)、プラチナの7種類の素
材でつくられる。その中でゴールド・モデ
ルはどのような特性を持つのだろうか。

「金属の比重を比べると、一番小さいのが
洋銀。次に銀、そして、9K、14K、18K、24K、
プラチナの順番となります。比重とは同じ
体積にしたときの密度の比で、比重が大き
いほど密度が高い(＝重い)こととなります。
同じ管厚の場合、素材の比重が大きくな
ると重量も重くなりますから、音色や吹き
心地が変わってきます。この比重による音
色の違いは感覚的にわかるもので、比重の
小さいほうが軽くて抵抗感が少なく、大き
くなるにつれて重く抵抗感が増え、深みが
出てきます。比重のほかにも、金属としての
音色の違いがあり、銀製に比べると金製は
輝かしく華やかに感じられます。

素材が変わると、フルートを製作する
ときにも違いが出てきます。例えばトーンホ
ールの引き上げ工程に代表される、金属を
曲げたり伸ばしたりする加工は、金は銀よ
り硬度が高いために加工の難度も高くな
ります。」



ゴールド・モデル 14K.GOLD

理想の配合バランス。究極の信頼性。
ザ・ゴールド・オブ・ゴールド。

18K.GOLD

すべては、表現のために。
独特の抵抗感と想像を超える可能性を内包する、
18Kゴールド。



時代が求めたゴールドの音色

なぜ金製のフルートが好まれるようになってきたのだろうか。

「古くから管楽器の製作者たちは、様々な材質とその加工技術を研究してきました。種類の異なる木や象牙、陶器、クリスタル、そして金属が使われるようになってからも真鍮や洋銀などの合金から銀まで。それらは管楽器の種類によって合うものも合わないものもあり、時とともに淘汰されてきたのです。そして金という材質がフルートに向いているということは、製作者、演奏者から聴衆までもが認めた結論のひとつだと思います。」

そして、大きな劇場やコンサート・ホールでの演奏会が増えたことも、理由のひとつに挙げられるでしょう。広い会場の隅々まで通る音、立ち上がりの良さや音色のクリアネス、そして、力強い低音域は、ゴールド・フルートの大きな特徴です。

新しい楽器が生まれると、そこからインスピレーションを得た楽曲や、その特性を活かした作品が誕生します。新しい音楽と新しい楽器は相互に結びつき、影響を与え合うのだと思います。

1869年に製作されたルイ・ロットのゴールド・モデルは、ゴールド・フルートがいつから

つくられたかを知る上で、残された数少ない記録のひとつです。

この楽器はジャン・ピエール・ランパル氏が所有していました。ランパル氏、ゴールウェイ氏など、現代のヴィルトゥオーゾと言われたスパー・ソリスト達が好んで愛用したことは、ゴールド・フルートが注目を集める最大の要因といっても過言ではありません。」

18Kの新しい音

ムラマツでは1979年に初めて製作された18Kモデルだが、ラインナップとしての登場は1998年以降のカタログに掲載されている。

「14Kと18Kを比較して吹いていただいた時に、お客様から次のようなコメントをいただいたことがあります。『反応が良く、ややエッジの立った感じのする14Kに対して、18Kは、まろやかさ、柔らかさ、表現の幅の広がりを感じられる』と。これは金の含有量によって生じる14Kと18Kの音色の差ということになります。14Kとは違うゴールド・モデルの新しい選択肢として、18Kが好まれるケースは増えてきました。決して14Kの上位が18Kということではありません。同じゴールドでも14Kと18Kのキャラクターで選んでいただけるようになったわけです。」

スタンダードな14K

ムラマツでは14Kモデルの製作を昭和41年（1966年）にスタートした。当時ゴールド・フルートといえば一般的に14Kモデルを指し、現在も14Kがゴールド・モデルの標準となっている。

「14Kは58%の金に銀と銅を混合した金属です。一方、18Kでは金が75%となります。銀と銅の混合率は一定ではありませんが、銅が多ければ赤味を帯び、銀が多ければ白味を帯びた色になります。この金属の配合バランスが加工性や音の違いに影響します。」

宝飾アクセサリなどでは14Kよりも18Kのほうが主流ですが、フルートに使われる金の場合には、音色、重さ、吹き心地など、楽器としてのさまざまな適合性・バランスから、14Kのほうが標準になっています。現在、プロの演奏家が吹いているゴールド・モデルは14Kが多いこともあって、《ゴールド・フルートの音色＝14Kの音色》というイメージも強いのかも知れません。

ちなみに、ゴールドの管厚は銀よりも薄く設定されています。銀と同じ管厚にするとゴールド・モデルはもっと重くなります。製作所では響きや重量などの様々な要素を考慮して、素材に適合した管厚を決めています。」



メカニズムとトーンホールのヴァリエーションについて

「14Kと18Kのメカニズムは、銀、9K、管体との同一素材（14Kまたは18K）の3種類があります。メカニズム部分の重量は意外に重く、使用する素材によって、楽器全体の重さや操作感、そして何より音色に違いが生まれます。管体とメカニズムは、どのコンビが良いということを言い切ってしまうのは難しいことですが、敢えて言うのであれば、その素材の特徴を最も引き出せるのは、管体と同一素材で作られたメカニズムだと思います。また14Kと18Kともに、トーンホールのヴァリエーションとしてドローン（引き上げ）とソルダード（ハンダ付け）の2種類をご用意しています。もちろんトーンホールも音色の違いにつながる大切な要素ですので、是非、吹き比べていただきたいと思っています。」

写真上/ドローン・トーンホール
写真中央/ソルダード・トーンホール
写真下/銀製メカニズムとのコンビネーション



各モデルの統一感

ムラマツ・フルートの大きな特徴は、全てのモデルがハンドメイドであり、同一の精度と品質で製作されているため、全ラインナップを通じて一貫したポリシーがある。

「EXから24Kまで、ムラマツの全てのモデルを聴き比べるイベントが行われたことがあります。奏者には、リハーサルなしで、同じメロディーを様々なモデルで吹き比べていただくのですが、『どのモデルを吹いても、どう吹いたらよいかの判断は一瞬のうちについて、楽器を変えてもまったく違和感なく吹けました』と仰っていただけました。このことは、モデルの違い⇨素材の違いであり、楽器の作り方や、そのモデルが目指す方向性の違いではないことが証明されたと思っています。私たちは、お客様が素材による音色の好みによって楽器を選ぶことができる、全ラインナップの統一感こそが、ムラマツの最大の特徴と考えています。」

ゴールド・モデルのメンテナンス

金は錆びにくいので、ついメンテナンスを怠ってしまいがち？……

「金は宝飾品に使われてきたことでもわかるように、変色しにくい特性を持っています。金の含有量が58%の14Kでも、銀に比べるとずっと耐食性があります。銀の場合は放っておくと全体が黒ずんできますが、金は見た目が変わりにくいので、逆に手入れがおろそかになっってしまう危険性があります。」

他の素材と同じように、表面を柔らかい布や皮で拭き、管内の湿気

を取り除くなど、日常の手入れはしっかり行っていたいただきたいと思っています。

メカニズムはどのモデルや素材の場合も、まったく同じ精度で作られていますので、使用頻度や扱い方によって差はありますが、耐久力に大きな違いはありません。それから、もちろん、定期的な注油と調整が必要なことは、皆さまご承知の通りです。

14Kと18K。ゴールド・モデルを代表する2つの個性をお近くの販売店で、是非お試しになってください。」

匠の技

最後に、その美しさと精巧さから、人気の高いオプションとなっている彫刻。ムラマツの誇る手彫りの技術について話を聞いた。

「彫刻は下絵を描くことから始まります。その下絵を、材料のリップ・プレートやキー・カップに写し、様々なデザインを彫りだしていくのですが、線の太さや形に応じて、刃先の異なる十数種類の彫刻刀を使い分けています。ミスの許されないフリーハンドの作業は、唯一無二の付加価値として、お客様のフルートをさらに特別な存在へと高めます。」



音楽史の扉

3 ジャン＝マリー・ルクレール

今回は、その美しく気品のあるヴァイオリン演奏が、イタリアのコレッリとともに「天使」と讃えられたルクレールのフルート・ソナタをご紹介します。



ジャン＝マリー・ルクレール (1697-1764)



クレールは天使のように演奏し、ロカテッリは悪魔のように演奏した。」

この言葉はルクレールがドイツのカッセルでイタリアの有名なヴァイオリニスト、ロカテッリと競演した時の演奏を聴いた人の感想です。その演奏会では、当時の音楽界の二つの大きな流れであるフランス様式とイタリア様式を聴き比べようという興味深い試みでした。その人はルクレールのヴァイオリンの音色の美しさと自由自在にリズムを操る素晴らしさを「天使」に例えました。またこの言葉を記録したルステイヒという人も「ルクレールは尋常でないほ

どクリアで甘い音色によって、聴衆の心をとらえる術を知っていた」と述べ、ルクレールのヴァイオリン演奏を絶賛しています。ロカテッリが「悪魔のように」と形容されているのは、ルクレールとは全く異なる演奏スタイルだったということ強調した言葉のようです。驚異的な左手のテクニクを駆使した情熱的で激しい演奏が彼の特徴でした。いずれにせよ、ルクレールの気品あるフランス様式の演奏が人々の心に安らぎと感動を与えたのは間違いありません。

ルクレールは生涯にヴァイオリンと通奏低音のためのソナタを49曲作曲しました。特筆すべきは、ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ集第1巻作品1の2番ハ長調、6番ホ短調、第2巻作品2の1番ホ短調、3番ハ長調、5番ト長調、11番ロ短調と第4巻作品9の2番ホ短調、7番ト長調の8曲がルクレール自身によって、*Tableaux* (直訳するとドイツ・フルートという意味ですが、当時フランスでは横笛を意味しました)で演奏可能で

あるとされていることです。また第2巻の8番ニ長調はフルート、ヴァイオリン・ダ・ガンバ、通奏低音のためのトリオ・ソナタであり、これを加えるならルクレールのフルートのためのソナタは全9曲ということになります。

ルクレールはそれらの曲がフルートで演奏出来るように、ヴァイオリン・パートを自ら書き換えたり、ある曲ではフルートとヴァイオリンのための別々の変奏を作曲することまでしています(譜例①、②)。ほかの作曲家たちが、ヴァイオリンでもリコーダーでも、フルートまたはオーボエでも演奏してよい、というような大雑把な感じで作曲しているのに対して、ルクレールは厳密にフルートのためにこれらの曲を選んだのです。そしてどのソナタにも、天使のような演奏で人々を感動させたルクレールの豊かな才能が遺憾なく発揮されています。彼の作品の特徴は、まず美しい通奏低音の動きです。それは緩やかな楽章ではしっかりとフルートを支えながら夢見るような旋律線を描き



リヨンの飾り紐の一例。(Lyon Manufacture Passementerie より)

ます。また速い楽章ではその通奏低音が、素晴らしいリズムの組み合わせによって曲に生氣を与えるのです。ほかのバロック時代の作曲家からは聞いたことのないような大胆で色彩感あふれる和声も彼の特徴のひとつです。マルク・パンシエルというフランスの音楽評論家はルクレールの和声について、「それはすでにベートーヴェンやモーツァルトを思わせるような見事な自由奔放さを持っている」と述べました。そしてフルートのメロディーはその通奏低音と和声の上を美しく、優しく、自由に、表情豊かなフランス風装飾を施されて歌うのです。

このような天才的音楽家ルクレールはどんな人物だったのでしょうか。彼の経歴は大変興味深いものです。生まれはフランスのリヨンです。8人兄弟で



コンセル＝スピリチュエルが行われた、チュイルリー宮殿。1871年に焼失し、1883年に解体された。

その内の6人までもがヴァイオリニストになったという音楽一家でした。しかし、父親は彼に、リヨン特産の飾り紐の技術を教えます。同時にルクレールは舞踏家、振付師、ヴァイオリニスト、作曲家としても才能を現しました。最初は地元のオペラ座で、その後イタリア、トリノのオペラ劇場でダンサーとして活躍します。そして、トリノにいる間に巨匠コレッリ門下で当時大変有名だったG・B・ソミスについてヴァイオリンの技術を完成させました。同時に活躍したドイツのフルーティスト、クヴァンツの自伝には、トリノを訪問した記述の中で、ルクレールがソミスの指導を受けていたことが記されています。ルクレールのことを「フランスで最優秀のヴァイオリニスト」と述べています。その後1728年、31歳のルクレールはパリに赴き、新しく発足した演奏会シリーズ「コンセル＝スピリチュエル」に10回出演しました。この「コンセル＝スピリチュエル」にはちょうど同じ時期に、有名なフルーティスト、ミシエル・ブラヴェも参加していました。ルクレールはブラヴェの素晴らしい演奏に触発されてヴァイオリン・ソナタをフルートでも演奏してほしいと考えたのではないのでしょうか。ルクレールは王室管弦楽団でも演奏するようになり、1733年、ルイ15世に認められ「王

室音楽家」に任命され、その後「首席奏者」になります。これは大変に名誉ある地位でした。彼はここで生涯の絶頂期を迎えます。しかしその後、ルクレールは、まさかの転落の人生をたどっているのです。その辺りの話も興味深いのですが、それはまた別の機会に譲りたいと思います。

彼の作品の素晴らしさは、もちろん持って生まれた豊かな才能によるものですが、ここまでのルクレールの経歴も大きく影響していると思われま

要求される技術を学んだことは、彼のメロディーに散りばめられたフランス様式の装飾に生かされています。ルクレールの装飾音はまさにそこになければならないという必然性が感じられるほど考え抜かれたもので、それ以上の装飾を演奏者が付け加える必要はないと言えるほど繊細で完璧です(譜例③、④)。またその生き生きとしたリズム

パリ・エコール・ノルマル音楽院を、演奏家資格を得て卒業。メゾン・ラフィット音楽院教授を務めた後、帰国。ムラマツ・フルート・レッスンセンター講師。

森岡広志

譜例① 作品1の2 ハ長調の第4楽章の冒頭。同じ段にフルートとヴァイオリンを書き分けてある。



譜例② 作品9の7 ト長調の第3楽章の冒頭。フルート用(a)とヴァイオリン用(b)が別々のページに印刷されている。



感あふれる通奏低音は、彼がダンサーであったことを雄弁に物語っています。そして大胆で息をのむほど美しい和声はイタリアとフランスで最高の音楽家たちから影響を受けて、彼がイタリア様式とフランス様式を見事に融合させた結果だと言えるでしょう。

ルクレールのソナタはフルーティストにとってフランス・バロックの宝のような存在です。是非みなさんもこれらの美しいソナタを「天使のように」演奏してみたいかがでしょうか。

譜例③ 作品9の2 ホ短調の第3楽章の冒頭。



譜例④ 作品9の2 ホ短調の第3楽章の末尾。



あなたの町のムラマツと出会える店

北海道 (株)ヤマハミュージックリテイリング 札幌店 …… 札幌市中央区南10条西1丁目1-50	011-512-6124	愛知県 村松楽器販売(株)名古屋店 …… 名古屋市千種区今池 5-1-5	052-733-8822
(株)ヤマハミュージックリテイリング 五稜郭ショップ …… 函館市本町23-2	0138-52-2955	(株)ヤマハミュージックリテイリング 名古屋店 …… 名古屋市中区錦 1-18-28	052-201-5153
(株)ヤマハミュージックリテイリング 旭川店 …… 旭川市4条通8丁目日本生命4条通ビル	0166-27-0620	バルドン楽器(株) …… 名古屋市中区金山 1-17-1 アスナル金山 2F	052-331-3383
タケダ楽器(株) …… 北見市大通西3-7-1	0157-23-3191	ヨモギヤ楽器(株) …… 名古屋市熱田区神宮 2-1-5	052-681-0251
島村楽器(株) 札幌クラシック店 …… 札幌市中央区北3条西 4-1 日本生命札幌ビル 4F	011-223-2263	ミュージックメイト マツイシ …… 半田市泉町 36	0569-24-0675
青森県 (株)成田本店 …… 青森市新町 1-13-4	017-723-2431	(株)植村楽器 …… 名古屋市千種区内山 1-1-10	052-722-1682
岩手県 (有)伊藤楽器店 …… 盛岡市中央通 1-11-12	019-624-3854	シンフォニア楽器 長久手店 …… 長久手市西浦 1216	0561-63-7655
山形県 (株)島山楽器 …… 酒田市栄町 13-12	0234-22-8833	シンフォニア楽器 小牧店 …… 小牧市若草町 219	0568-73-0587
(株)富岡本店 …… 山形市七日町 2-1-8	023-641-0644	滋賀県 (有)ウインドミュージック …… 草津市若竹町 8-8	077-567-6333
宮城県 (株)三立 仙台本店 …… 仙台市青葉区一番町 1-12-23	022-265-6211	(株)JEU GIA 草津 Aスクエア …… 草津市西流川 11-23-23A SQUARE内 SARA 2F	077-561-6570
(株)ヤマハミュージックリテイリング 仙台店 …… 仙台市青葉区一番町 2-6-5	022-227-8517	サンクス楽器 …… 甲賀市水口町日電 1-15	0748-63-1466
秋田県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 秋田店 …… 秋田市中通 4-1-5	018-835-5091	(株)塚本楽器 …… 近江八幡市堀上町 145-6	0748-33-5198
福島県 (株)キクヤ楽器店 …… いわき市平字 2-2-21	0246-25-7171	京都府 (株)JEU GIA 三条本店 APEX …… 京都市中京区石橋町三条通寺町東入 11	075-254-3750
(株)ウインズ・ユーいわき店 …… いわき市平 1-1 ワシントンホテル 1F	0246-25-5114	ユリ楽器(株) …… 京都市上京区丸太町通千本東入中務町 491-69	075-822-1818
茨城県 (株)永江楽器 水戸 …… 水戸市桜川 1-5-15	029-226-6540	(株)三字屋楽器店 …… 福知山市内記新町 51	0773-22-2215
(株)かわまた楽器店 …… 水戸市泉町 2-3-4	029-226-0351	大阪府 村松楽器販売(株)大阪店 …… 大阪市淀川区西宮原 2-1-3 SORA 新大阪 21 2F	06-6394-6000
(株)ウインズ・ユーつくば店 …… つくば市福岡 66-1 イオンモールつくば 1F	029-896-6110	三木楽器(株)心斎橋店 …… 大阪市中央区心斎橋筋 1-9-4	06-6251-4596
(株)ヤマハミュージックリテイリング ミュージックスクエアつくば …… つくば市研究学園 5-19 イースつくば 3F	029-868-7180	(株)国際楽器社 …… 大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28	06-6252-0222
栃木県 (株)上野楽器 …… 宇都宮市江野町 4-6	028-633-4286	(株)ヤマハミュージックリテイリング 大阪なんば店 …… 大阪市西区南堀江 1-2-13	06-6531-8204
群馬県 (株)煥乎堂 …… 前橋市本町 1-2-13	027-235-8116	(株)コダマ楽器 …… 大阪府城東区鴨野西 2-16-8	06-6967-5511
(株)雪草楽器 …… 高崎市江木町 1727	027-325-6860	大東楽器(株)寝屋川店 …… 寝屋川市八坂町 16-4	072-839-1990
埼玉県 (株)下倉楽器 大宮店 …… さいたま市大宮区大門町 2-92	048-643-6500	島村楽器(株)グランフロント大阪店 …… 大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪北館 5F	06-6359-2855
千葉県 (株)伊藤楽器 マイスター船橋店 …… 船橋市本町 1-9-9 ルナパーク船橋 1F	047-495-3000	兵庫県 (株)森岡楽器 …… 西宮市池開町 1-35	0798-47-7372
(株)伊藤楽器 ららぽーと店 …… 船橋市浜町 2-1-1 ららぽーと TOKYO BAY 南館 3F	047-435-1074	(有)近藤楽器 …… 神戸市中央区布引町 2-1-12 コタニビル 201	078-230-6070
(株)伊藤楽器 松戸店 …… 松戸市松戸 1174-1	047-368-1161	(株)ヤマハミュージックリテイリング 神戸店 …… 神戸市中央区元町通 2-7-3	078-391-7653
島村楽器(株)ビビット南船橋店 …… 船橋市浜町 2-2-7 ビビット南船橋 4F	047-495-4010	奈良県 島村楽器(株)奈良店 …… 奈良市二条大路南 1-3-1 イトーヨーカドー奈良店 4F	0742-30-2520
東京都 村松楽器販売(株)新宿店 …… 新宿区西新宿 8-11-1	03-3367-6000	鳥取県 (有)らばん …… 米子市道笑町 1-3 BMEビル 2F	0859-34-5767
(株)山野楽器 本店 …… 中央区銀座 4-5-6	03-5250-1062	(有)はとや楽器 …… 倉吉市上井町 2-4-8	0858-24-6612
(株)山野楽器ウインドクルー …… 新宿区百人町 1-11-22 リサビル 2・3F	03-3366-1106	鳥根県 (有)タカキ楽器店 …… 松江市寺町 199-1	0852-21-4509
(株)下倉楽器 …… 千代田区神田駿河台 2-2	03-3293-7706	(株)アツタ …… 出雲市渡橋町 1210	0853-22-7322
(株)下倉楽器 八王子店 …… 八王子市明神町 4-7-3	0426-46-7706	岡山県 (有)長谷川楽器店 …… 岡山市北区表町 3-3-20	086-225-2858
(有)フルートパーク タニテック …… 新宿区下落合 3-20-4	03-5983-7320	(株)ヤマハミュージックリテイリング 岡山店 …… 岡山市北区表町 1-5-1 岡山シンフォニービル 2F	086-224-5333
(有)フルート専門店 テオバルト …… 新宿区下落合 3-16-18	03-5983-0711	ミュージックハウス ワタセ …… 岡山市北区津島本町 4-30	086-255-5611
(株)ダク …… 新宿区百人町 2-8-9	03-3361-2211	広島県 (株)広島アーツ楽器 …… 広島市中区八丁堀 9-6 ミナキビル	082-227-6601
(株)ヤマハミュージックリテイリング 銀座店 …… 中央区銀座 7-9-14	03-3572-3134	(株)ヤマハミュージックリテイリング 広島店 …… 広島市中区紙屋町 1-1-18	082-244-3780
(株)ヤマハミュージックリテイリング 池袋店 …… 豊島区南池袋 1-25-11 第15野蒜ビル	03-3988-2911	(有)ウインドブルー …… 三原市円一町 4-1-35	0848-81-2111
(株)永江楽器 …… 杉並区高円寺南 3-37-13	03-3312-7591	スガナミ楽器(株) …… 町田市中町 1-16-2	042-726-0311
(株)宮地楽器 トップウインズ …… 小金井市本町 5-15-9	042-387-1231	(株)宮地楽器 トップウインズ …… 小金井市本町 5-15-9	042-387-1231
神奈川県 (株)セントラル楽器 …… 横浜市神奈川区西神奈川 1-15-2	045-324-3111	神奈川県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店 …… 横浜市西区南幸 2-5-9	045-311-1201
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店 …… 横浜市西区南幸 2-5-9	045-311-1201	島村楽器(株)川崎ルフロンド …… 川崎市川崎区日連町 1-11 川崎ルフロンド 7F	044-221-5261
島村楽器(株)横浜みなとみらい店 …… 横浜市中区みなとみらい 3-5-1 MARK IS みなとみらい 3F	045-222-8685	新潟県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 新潟店 …… 新潟市中央区東万代町 1-30	025-243-4312
新潟県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 新潟店 …… 新潟市中央区東万代町 1-30	025-243-4312	富山県 (株)開進堂楽器 楽器センター高岡 …… 高岡市下伏間江 383 イオンモール高岡 2F	0766-21-1029
富山県 (株)開進堂楽器 楽器センター高岡 …… 高岡市下伏間江 383 イオンモール高岡 2F	0766-21-1029	(有)ウインズラボ …… 高岡市駅前 3-1-3 広島ビル 1F	0766-25-9323
石川県 (株)開進堂楽器 楽器センター金沢 …… 金沢市駅西本町 6-3-21	076-221-2822	福井県 (株)松木屋 ミュージックファクトリー …… 福井市日之出 5-16-21	0776-52-0711
福井県 (株)松木屋 ミュージックファクトリー …… 福井市日之出 5-16-21	0776-52-0711	長野県 (株)美鈴楽器 本店 …… 長野市北石堂町 1403-1	026-226-7633
長野県 (株)美鈴楽器 本店 …… 長野市北石堂町 1403-1	026-226-7633	北条楽器 …… 岡谷市東銀座 1-6-1	0266-22-5924
山梨県 内藤楽器(株)本店 …… 甲府市丸の内 1-17-7 2F	0552-35-7110	静岡県 すみやグッディ(株)本店 …… 静岡市葵区呉服町 1-3-14	054-253-6222
静岡県 すみやグッディ(株)本店 …… 静岡市葵区呉服町 1-3-14	054-253-6222	すみやグッディ(株)SBS通り店 …… 静岡市駿河区中田本町 56-5	054-282-3911
すみやグッディ(株)富士店 …… 富士市瓜島町 79	0545-55-3673	すみやグッディ(株)沼津店 …… 沼津市緑ヶ丘 2-5	055-926-1171
すみやグッディ(株)沼津店 …… 沼津市緑ヶ丘 2-5	055-926-1171	(株)ヤマハミュージックリテイリング 浜松店 …… 浜松市鍛冶町 321-6	053-454-4077
(株)ヤマハミュージックリテイリング 浜松店 …… 浜松市鍛冶町 321-6	053-454-4077	島村楽器(株)ららぽーと磐田店 …… 磐田市高見丘 1200 番地 ららぽーと磐田店 1F	0538-59-0390
島村楽器(株)ららぽーと磐田店 …… 磐田市高見丘 1200 番地 ららぽーと磐田店 1F	0538-59-0390		

MURAMATSU通信 SPECIAL 通巻 Vol.7

発行日 — 2015年5月25日
 発行所 — 村松楽器販売株式会社
 東京都新宿区西新宿 8-11-1 〒160-0023
 協力 — 株式会社 村松フルート製作所
 編集協力 — 有限会社 ラグタイム

●お問い合わせ 村松楽器販売株式会社 営業部 (03-3367-6000)

●http://www.muramatsufute.com

デザイン: 太田事務所 / 商品写真撮影: 細川 晃

表紙/金箔入りガラス碗(紀元前3世紀) 截金文様の復元

江里 朋子(截金作家)(協力: 磯谷晴弘、平安仏所)

The Muramatsu
flute

since 1923